

日本研究の卒論指導における問題点 ーインドネシアの日本研究教育をめぐってー

Sheddy Nagara Tjandra

序

インドネシアでは、大学レベルの日本語教育は1960年代から始まり、現在まで半世紀ほどの歴史がある。現在では、日本語の教育だけでなく、幅広く日本の歴史や社会、文化の研究と、その教育も行われている。

私は日本語と日本語学の教師であるが、これまでジャカルタの四つの大学で教えた経験がある。学部と大学院の両方で教えてきたが、今回は学部の卒論について述べたい。これは私が教えた四つの大学のうち三つで私自身が経験したことについての考察である。私は日本語が専門だが、学部では日本研究の卒論も見る必要があった。

第一外国語になる英語の教育は目標がはっきりしているため、あまり問題にならない。第二外国語の一つである日本語の教育も定まった目標があり、さほど問題はないと言える。その目標とは日本人がすべて決める外国人日本語能力試験である。しかし、日本研究には具体的な目標と言えるものがない。そこには問題がひじょうに多い。そのため、日本語教育の現場でも、実際さまざまな教育上の問題がある。

問題点

- 1 インドネシアにおける日本研究の教育とは何か？
- 2 学部レベルで日本研究の卒論指導はどうすればいいか？
- 3 学部レベルで日本語の卒論のテーマはどんなものがいいか？

日本研究とは何か

専門用語として「日本研究」のほかに「日本学」という言葉を使う人もある。たとえば、2010年の東京外国語大学主催の国際シンポジウムでは「日本研究」と「日本学」とが同じ意味で使われている。このシンポジウムには私を含め、世界の15ヶ国の代表者が参加し、日本語、日本研究について報告や討論を行った。このシンポジウムでは、「日本研究」とは何か、はっきりとした定義にまでは踏み込めなかったが、20名以上の参加者が行った報告を見ると、「日本研究」の内容は「日本語学、日本文学、日本史、日本文化」の分野にとどまった。日本経済、日本政治のような現在話題となりやすい分野の課題は一切な

かった。インドネシアに話を戻すと、インドネシアには「インドネシア日本研究協会（ASJI）」という組織がある。この協会では、日本研究についての定義が一応されており、それによると、「日本研究」とは「自然科学の諸分野を除いた日本についての研究を行う学問」となっている。つまり、「日本語学や日本文学、日本史」だけでなく、「日本経済、日本の政治、日本社会」などを含む広範囲な地域研究の学問である。

学会のメンバーを見ると、確かに日本語研究者、日本文学研究者、日本歴史研究者だけでなく、日本社会研究者、日本経済研究者、日本法の研究者などがいる。ある経済学の教授が次のように言った。大臣も務めたことのあるこの教授は、はっきりと日本経済は日本研究のひとつの分野であると説いた。しかし、この教授が勤めている A 大学では、日本経済は経済学部、日本政治は社会学部、日本の法律問題は法学部でそれぞれ別々に行われている。日本研究の大学院があるこの A 大学では、学部レベルの日本研究で日本経済や日本政治の分野は見当たらない。大学院レベルでは少しあることはあるが、メインの分野とはなっていない。私が教えた経験のある B 大学では、日本研究は日本語学、日本文学、日本史だけであった。C 大学でも同じだった。現在教えている D 大学でも変わらない。ABCD の四つの大学以外でも事情はあまり変わらない。つまり、インドネシアでは、日本学科（日本語学科、日本文学科、日本研究科）における日本研究は日本経済、日本政治を除いた言語文化学とすることができる。

2010 年卒論のための日本研究セミナー

2010 年の 1 月、インドネシア日本研究協会と日本国際交流基金の共同主催で「卒論のための日本研究セミナー」が行われた。ジャカルタで行われたこの学会では、国際交流基金の専門家である浜口美由紀氏を始め、いろいろな講演があった。浜口氏は、日本国内にある日本研究の資料源を紹介された。日本研究に携わる人、特に学生たちにとって、この講演は非常に有意義なものとなった。そのほか、協会会長の Siti Dahsiar 氏の講演もあった。Dahsiar 氏は日本研究関係の学術論文について講演をされた。Dahsiar 氏は、日本研究の卒論を書く場合、七つの重要なステップがあると説いた。まず日本文化とは何であるか、その理解が必要だ。2 番目は日本文化の中のどの分野であるかを定位すること。3 番目は学生が日本文化を見るための自分の立ち場、視点を決めること。4 番目は参考文献を利用するとき、その著者の考え方についての理解。5 番目は、研究の題目を決めること。6 番目は、研究テーマの問題点の確認。7 番目は、その問題点についてどこまで扱うか、目的と目標の確認。こうなってやっと研究を始めることができ、卒論が書ける。このような Dahsiar 氏の講演を分析すると、その基底にある日本研究とは日本文化学だと言える。これら二人の先生のほかに、国際交流基金のジャカルタ図書館にある日本研究のための資料

の紹介もあった。日本研究をやる者にとって、このセミナーの情報はひじょうに参考になる。

A, B, C 大学における日本研究の教育

次に、私が教えたことのある三つの大学における具体的な例を示して話を進めたい。

A 大学は国立大学で学部と大学院がある。大学院の方はできたときから、日本研究のコースとなっているが、これには日本語学も含まれている。日本語学の課題には選択肢があまりない。指導教官が指定するのではなく、大学院の学生は自分が興味を持つものを選ぶのだ。学生たちが現在よく興味を覚えるのは「相槌」のような語用論のテーマである。一方、日本研究の方は分野の幅が広い。日本文学、日本文化、日本社会、日本史などが、この場合、何を研究できるか、それは指導を引き受ける教員が決める。学部レベルでも事情は同じだ。この大学ではどんな研究資料を選ぶかではなく、どんな研究テーマにするかに重点をおく。これは指導教員のそれぞれの専門による。B 大学では、日本研究の幅が狭い。日本語学と日本文学だけと言えなくない。C 大学の方は A 大学ほど広くはないが、B 大学よりは広い。ここでは、日本語学、日本文学、日本史、日本文化、日本社会のようなものを研究テーマにできる。指導教員になる教師の専門がさまざまなためだ。

この三つの大学では、日本語学の卒論研究で、いわゆる新しい研究を課題にするのは難しい。ほとんどすべてが既に行われた研究の調査が課題になっている。A 大学の大学院では新しい研究をすることも可能だ。日本語学は語用論ぐらいだが、日本研究はいろいろで、たとえば、在日留学生の問題、在インドネシア創価学会の問題、現在の日米関係、日本の老人問題、日本の神道、日本の葬儀問題、介護問題などである。B と C の大学では、日本語学をやる学生が多い。課題は大部分文法上の助詞問題、助動詞、副詞（擬音語、擬態語を含めて）、敬語問題、男性語女性語の問題などである。結局、この三つの大学の日本研究は日本経済、日本政治を別にした日本語日本文化の学科ということになる。

C 大学では面白いケースがあった。日本の音楽をやりたいと希望する学生がいたのだ。大学のカリキュラムから言えばこれも可能である。これも日本研究の範囲に入るからである。しかし、日本の音楽について指導できる教員がいるか、これは別の問題になる。その学生にそう言うと、それでは、日本の歌の翻訳をやるのはどうかとやってきた。これなら指導できるということで、その学生にやってみよう勧めた。語学の一部として「翻訳」ができる指導教員はいるからだ。

D 大学における日本研究の教育

この大学はカリキュラムから見れば、上の三つの大学とあまり変わらない。しかし、インドネシアには次のようなことわざがある。「Lain ladang lain belalangnya（田んぼが違えば、中の蛾も違う）。」まさにこのことわざの言うとおり、この大学の学生は違う。日本研究教育の一環で行う卒論の指導には問題点が二つある。ひとつは前に述べた課題の問題である。もう一つは研究資料の問題だ。指導の面では、研究資料をどのようなものにするかを優先するのがこの大学の特徴となっている。学生が希望する資料は、大部分が日本の歌で、その次は日本のマンガ、アニメである。この二種類のデータ資料が全卒論の6割に及んでいる。残りの4割はさまざまであるが、その中で一番多いのは教科書とアンケート調査の回答である。日本歌をデータとするテーマはまたいろいろある。例えば、作詞者・歌手が歌に込めた心・メッセージ、その歌に見られる日本人の精神性、生きがい、母と子の情愛、兄弟愛、日本人の宗教心、日本人の思想、日本人の集団主義など。マンガ、アニメを資料にするテーマは歌ほど多くはないが、面白いものがある。例えば、日本のマンガ、アニメに見られる特徴、主人公、メッセージ、擬音語・擬態語、助詞の使い方など。教科書を資料にしたテーマはほとんどが文法の問題で、アンケートを資料にするテーマは学生が日本語の学習で経験した誤用の問題である。

教員の側から言うと、資料から始める研究の指導は難しい。しかし、学生の興味がテーマではなく、資料にあるのだから、仕方がない。学生の希望にはできるだけ従わなければならない。

この大学では面白いケースがあった。日本の三味線と日本の琴について卒論を書きたい、また同時にそれを習いたいと二人の学生が言ってきたのだ。しかし、日本の楽器が専門の先生などいないので、それをやるのは無理だと答えた。できるのは、三味線と琴の歴史についてまでだと学生に勧めた。文化史が専門の先生はいるからだ。

また、日本のアニメについて学びたいという学生もいる。これは学科が違った。D大学には、他の学部アニメ専門の学科がある。そこでは日本のアニメの作り方について学ぶことができる。アニメの技術的な面である。人文学部では、日本のアニメの文化的な面については学べる。そこで学生にはそれを勧めた。日本文化が専門の先生がいるからだ。

おわりに

以上述べたように、日本研究の卒論指導は日本語学の卒論指導よりもかなり複雑である。特に資料から始める指導に問題が多く、今後さまざまな可能性を検討したい。

参考文献

東京外国語大学国際日本研究センター 『世界の日本語・日本学 - 国際シンポジウム報告集』, 2010

A Guideline In Writing Thesis in Japanese Studies: Culture, Language, and Literature, Japan Foundation, ASJI, STBA-LIA, Seminar, 2010

浜口美由紀 日本研究のための Website, Japan Foundation ASJI STBA-LIA Seminar, 2010

Anwar, Siti Dahsiar, *Penulisan Karya Ilmiah Dalam Studi Jepang* (日本研究の論文の書き方), Japan Foundation, ASJI, STA-LIA Seminar, 2010

Tjandra, Sheddy 『インドネシア大学の日本語教育と大学院の日本研究教育』, 東京外国語大学国際日本研究センターシンポジウム報告集, 2010